



令和4年5月31日

各 位

上場会社名 ファースト住建株式会社  
 代表者 代表取締役社長 中島 雄司  
 (コード番号 8917)  
 問合せ先責任者 取締役管理部長 東 秀彦  
 (TEL 06-4868-5388)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、令和3年12月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

令和4年10月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(令和3年11月1日～令和4年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半期 純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	22,900	1,740	1,700	1,050	75.56
今回修正予想(B)	19,400	1,620	1,580	1,020	73.40
増減額(B-A)	△3,500	△120	△120	△30	
増減率(%)	△15.3	△6.9	△7.1	△2.9	
(ご参考)前期第2四半期実績 (令和3年10月期第2四半期)	20,836	1,466	1,448	948	68.27

#### 修正の理由

売上高につきましては、主力の戸建分譲において、当第2四半期連結累計期間の期首時点では完成在庫が前年同期に比べて減少しており、販売棟数を拡大するためには分譲用地を確保し、建築工事を円滑に推進し、新規物件の供給棟数を増加させることが重要であるため、分譲用地仕入と工程管理の強化に注力して取り組んでまいりました。しかしながら、当第2四半期連結累計期間においてはまだ十分に完成棟数を伸ばすまでには至らず、土地分譲を含む戸建分譲の販売棟数は、前年同期を12.0%下回る585棟にとどまる実績となり、売上高は当初の予想を下回る見込みとなりました。

営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、ウッドショックなどによる建築コストの上昇が生じているものの、これまで分譲用地の仕入を厳選し在庫状況の改善を進めてきた成果や平均販売単価がやや上昇したことなどにより、利益率は期初の想定をやや上回って推移いたしました。売上高の減少に伴い当初の予想を下回る見込みとなりました。

なお、通期の連結業績予想につきましては、令和3年12月13日の公表数値から変更はありません。足許では徐々に仕掛在庫が増加傾向となっており、今後においても引き続き分譲用地仕入に注力するとともに、適切な工程管理により新規物件の供給棟数増加に取り組み、業績向上並びに企業価値の向上に取り組んでまいります。

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上